

知ろう! 仏教讃歌

(4)

福本 康之

《念 仏》

編曲・D. ハント

ハワイで発表され、世界に響く調べに

ist Temple』(ハワイ開教区刊、編纂者はアーネスト)で、この作品が初めて確認されますので、おそらくその頃に発表されたものと考えてよいでしょう。

その後、日本に紹介される契機となったのは、1939年、本願寺派から出版された『和英標準仏教讃歌動式集』に収録されたことによります。

この動式集では和声付け(ハ一モ二一)が若干異なっていますが、現在はハワイや北米の讃歌集も含め、この動式集のもの採用されています。

実際の普及という点では、戦後、京都女子高等専門学校(現・京都女子大学)で始まった音楽礼拝の楽曲のひとつに、この作品が用いられたことが大きいでしょう。

ハワイで生まれたお念仏の調べが、80有余年の時を経て、世界各地で響いていると思うと、喜ばしい限りです。

(本願寺派総合研究所 仏教音楽・儀礼研究室長)

(ハントによる作品を含めたハワイ発の57点も収録)。

音楽礼拝で用いられる楽曲のひとつに仏教讃歌《念仏》があります。この作品、ハワイで発表されたこともあって、日本のみならず、ハワイはもちろんのこと、同じく英語圏の北米開教区(ハワイ)も『The Nembutsu』の名で知られています。

という表記です。そこから、「D. ハント」なる人物が編曲(あるいは既存の楽曲を採譜)した作品であると推測されます。ただ、いつ創られたかを知るには、ハントさんの活動を追ってみる必要があります。

その一方で、認知度に比して曲の成り立ちについては、あまり詳しいことがわかっていません。唯一の情報が、ハワイで編纂されてきた歴代の聖典・讃歌集で見られる『Arr. by D. Hunt』

ハントは名を下ロシーとい、夫のアーネストとともにハワイに移住し、1924年に得度式を受けています。そして1933年に発行された『GATHAS For Use In Buddh



ハワイ開教区の開教本部があるホノルル市のハワイ別院



収録CD: 『仏教讃歌 歌集』
収録楽譜: 『仏教讃歌 歌集』
(本願寺出版社刊)

※スマートフォン、タブレットなどで上記QRコードを読み込むと掲載曲を聴くことができます。ご加入のプランなどに注意してご利用ください